

平成30年度 全国学力・学習状況調査概要

七次台中学校

本年4月17日、文部科学省により、全国の小学6年生、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、学校における教育活動の成果や課題を見つめ直し、よりよい教育活動に活かすことを目的としています。調査内容は、教科に関する調査として国語と数学と理科の3教科を実施しました。また、その他、生活習慣や学習環境についての調査がありました。国語と数学の2教科については主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。理科は、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題を一体的に出されました。3年生には既に個人票を返却してあります。今後の学習にお役立てください。なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解いただくとともに、今後ともご協力をお願いいたします。

国語の考察

- ・T字班を活用し、理由を挙げて意見を述べる際に常に文章に立ち戻って考えさせる話し合い活動を行った成果として、読み取る力はついています。特に、説明的文章では情報を整理し内容を捉えたり、文学的文章では登場人物の描写に注意して心情を読み取ったりする力が高かったです。
- ・漢字の読みは出来ていますが、書きについては身近な漢字でありながら書けないため、漢字の書き取りの力を身に付けさせるとともに、日頃から漢字を使って書かせる必要性を感じました。
- ・書くこと全般に対してやや苦手という傾向が出ました。短いものでも読みとったことを文章にまとめたり、自分の意見が述べやすいテーマで意見文を書かせたりする活動を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくす授業展開を重視していきたいです。

数学の考察

- ・数学ができるようになりたいと考えている生徒が多いことが解りました。
- ・計算問題では、できる生徒が多いことが解りました。しかしながら、指数や四則計算では約束事を理解できていない生徒がいることも解りました。
- ・グラフや資料から必要な数値を読み取り、問題解決にあたるのがやや苦手と解りました。授業を通して、何が問われているかなど、道筋を立てて考えることをより重視させていきたいです。

理科の考察

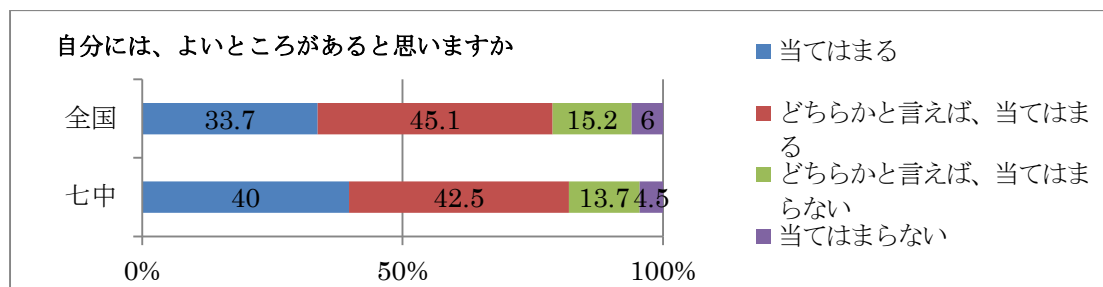
- ・理科に対する興味や関心が高く、熱心に取り組んでいることがわかりました。
- ・化学分野に関する知識が豊富で、深く考えることができています。
- ・観察や実験と日常生活とを結びつけて考えることが苦手という傾向が出ました。
日常の中にある疑問を解決するために観察や実験を行っていることを意識付けられるような授業展開をしていきます。

学習や生活の状況について

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について、質問紙による調査も実施しました。そのうちの一部ですが、本校の特色について、その結果をお知らせいたします。

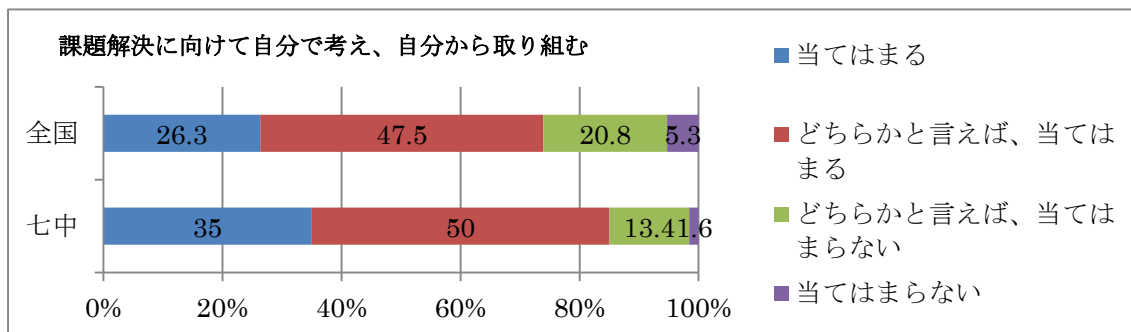
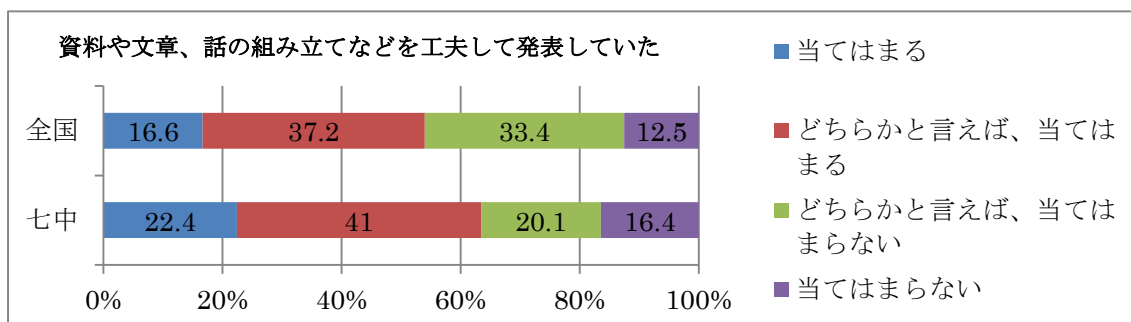
《自己肯定感が高い》

自分には良いところがあると思っている生徒の割合は、全国平均を上回っています。本校生徒は比較的自己肯定感が高いようです。自己肯定感、物事に取り組む意欲（モチベーション）に大きな影響を与えます。自己肯定感が高ければ、人生における様々な出来事に対して積極的に取り組んでいくことができます。



《主体的・対話的で深い学びを重視》

自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している生徒が全国平均を上回っています。文部科学省の提唱する「主体的・対話的で深い学び」をこれからも重視した授業を進めていきます。



《コミュニケーション能力の育成》

全国平均に比べると、家族や人とのコミュニケーションが低いことが解りました。人との様々な関わりの中で、他の思いを理解したり、自己表現力を高めたりする活動を充実させていきます。

